

女性のつながりサポート事業【新潟県】

総事業費	10,148千円
交付金額	6,850千円

地域の実情と課題

- 女性の自殺者数はR元:120人、R2:141人、R3:149人、R4:133人と推移しており、R3から減少したものの未だコロナ前より多い。
- フードバンクを利用するひとり親家庭(シングルマザー)は増加している。
- コロナ5類移行後においても、物価高騰等の影響を受け、望まない孤独・孤立で不安を抱える女性が社会とのつながりを回復できるよう、きめ細かな支援が必要。

事業の特徴

- (公財)新潟県女性財団を中心に、NPO等の相談支援者のスキル向上や、各種相談支援窓口を周知するほか、困難を抱える女性に生理用品の提供等を通して、相談・支援に繋げていく。
- フードバンクの連携組織である連絡協議会を中心に、女性同士の支援(ピアサポート)の提供や、よりリスクの高い者には、訪問・同行支援を行うなどし、きめの細かい支援を提供する。
- 専任の相談員に加え、有資格者による専門相談を実施する。

事業の効果

- 様々な女性支援・相談窓口の周知。
- 研修等による女性支援に係る各団体の人材育成。
- 生理用品配布による、生活に困難を抱える女性への相談のきっかけづくりや相談の継続。
- ピアサポートによる女性同士の支援や居場所の確保。

目的・目標

- 望まない孤独・孤立で不安を抱える女性が社会とのつながりを回復できるよう、県や市町村とNPO等の各組織間連携を図るとともに、NPO等の知見を活かしてきめ細かい支援を提供する。
 【参加者数】目標 延べ400人
 実績 アウトリーチ支援 126人
 ピアサポート支援 760人

連携団体

- (公財)新潟県女性財団を中心に、市町村や学校、新潟県フードバンク連絡協議会など各種の相談・支援活動を展開するNPO等

今後の課題

- 行政機関とNPO等との更なる連携、協働関係づくり。
- 支援や相談が必要な女性に届くような生理用品等の配布先の工夫。
- 支援が必要な女性の更なる掘り起こしとプッシュ型の支援。

事業の概要

ネットワーク形成・連携支援

□相談・支援窓口の人材育成セミナー

支援・相談体制の充実を図るため、NPO等の相談人材を育成するセミナーをオンラインで開催。

《テーマ》

「様々な困難を抱える女性への支援について考える」

- ・ 1回目 令和6年11月11日（月）

参加者：29人（20団体）

内容：

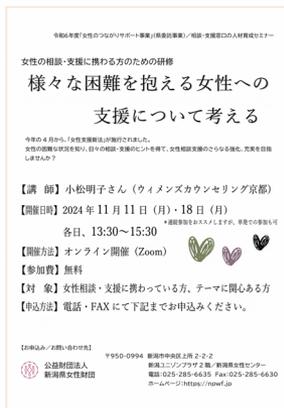
「支援者に求められるジェンダー・センシティブ」

- ・ 2回目 令和6年11月18日（月）

参加者：20人（14団体）

内容：

「子ども時代の逆境的な体験とその影響」



□相談・支援窓口の周知

女性のための相談・支援窓口のWebサイト「にいがたRibbon net」の周知及び生理用品と併せてリーフレット・ポスターの作成・配布

- ・ 「にいがたRibbon net」 21団体掲載

- ・ 生理用品の配布

配布数：205,920枚

配布先：関係NPO、高校、大学、市町村等

- ・ ポスター・リーフレットの作成・配布

配布数：ポスター 1,000枚 リーフレット 20,000枚

配布先：高校、大学、専門学校、公民館、市町村、ハローワーク、警察署、NPO等



アウトリーチ支援・ピアサポート支援

新潟県フードバンク連絡協議会と連携し、アウトリーチ支援、ピアサポート支援を実施

□ピアサポートイベント・居場所づくりの実施

開催回数：23回

□訪問・同行支援の実施

訪問件数：126件

相談事業

□有資格者による専門相談

新潟県男女平等推進相談室の特別相談として実施。

- ・ 弁護士による法律相談 相談者数：12人
- ・ 精神科医師によるこころの相談 相談者数：3人

□相談体制の充実

相談体制を補強するため、新潟県男女平等推進相談室の相談員を増強